平成 30 年度第 2 回大磯町スポーツ健康会議 会議録

1. 日時 平成 31 年 2 月 7 日 (木) 午後 1 時 30 分～午後 2 時 20 分

2. 場所 大磯町役場 4 階第 1 会議室

3. 出席者

【委員】

北岡 英子 会長
山本 通代 委員
及川 陸子 委員
木内 忍 委員
児玉 浩毅 委員
尾崎 一夫 委員
添田 浩幸 委員
加藤 澄江 委員
植地 素子 委員
大山 公一 委員
原田 康弘 委員

(欠席者)

野坂 俊弥 副会長
村上 健 委員

【事務局】

山口 信彦 スポーツ健康課長
吉田 敏美 スポーツ健康副課長兼健康増進係長
高橋 正寿 スポーツ健康課スポーツ推進係長

【オブザーバー】

平塚保健福祉事務所 保健予防課長 近内 美乃里 氏

4. 傍聴者 1 名

5. 配布資料

- ・ 次第・委員名簿
- ・ 【資料 1】 大磯町自殺対策計画 (案)
- ・ 【資料 2】 大磯町自殺対策計画 (素案) パブリックコメントの結果
- ・ 【資料 3】 答申書 (案)
- ・ 【資料 4】 けんこうプラン大磯の進捗管理について
- ・ 大磯町スポーツ健康会議規則

6. 議題

(1) 大磯町自殺対策計画（案）について

- ・【資料1】大磯町自殺対策計画（案）
- ・【資料2】大磯町自殺対策計画（素案）パブリックコメントの結果

(2) 大磯町自殺対策計画の答申について

- ・【資料3】答申書（案）

(3) その他

- ・【資料4】けんこうプラン大磯の進捗管理について

会議概要

1 開会

- 会長あいさつ

2 議題

(1) 大磯町自殺対策計画（案）について

資料1、資料2に基づき事務局より説明し、案のとおりの内容で承認される。

《質疑応答》

会長) パブリックコメントに対してはどのように対応を行ったのか。

事務局) 資料2の記載のとおり対応を行った。意見を参考に計画の一部を修正させていただいたほか、今後の取組みの参考にさせていただくこととした。

会長) 貴重な意見をぜひ計画に活かしていただきたい。

本会議は健康・食育・スポーツの関係団体等の方に集まっていた。事務局より提示された計画（案）に対する意見や自殺対策に関わる各分野における取組みをお伺いしたい。学校ではどのような取組みを行っているのか。

委員) 今の生徒は生徒同士の関係づくりを苦手としている。生徒同士の関係づくりが深まるよう、工夫して授業を行っている。また、学期毎の教育相談や長期休暇後の面談を実施している。担任だけでなく、担任以外の教師に相談できる機会も設けている。子どもから発信されるSOSに教師がいかに気づくかが大切であると考えており、生徒が教師と話すことのできる「場」を設け、教師が生徒の声に耳を傾ける取組みを重点的に行っている。

会長) これからも本計画を意識して取組みを推進していただきたい。平塚保健福祉事務所ではどのような取組みをされているのか。

オブザーバー) 平塚保健福祉事務所では、精神保健福祉事業の一環として自殺対策に取り組んでいる。自殺未遂者が病院へ搬送された場合、外傷の手当を行うだけでなく、病院と連携して精神的なケアを行うための相談窓口へつなぐことが大切であるとする。また、こころの健康相談を実施するほか、自死遺族の集

- いを開催し、家族や友人等大切な方を亡くされた方に対するケアを行っている。
- 会長) 町だけで自殺対策に取り組むことは難しい。町と県が連携して取組みを進めていただきたい。公募町民の立場からは何か意見はあるか。
- 委員) ゲートキーパーという存在を知らなかった。町で養成講座を開催していただければ参加してみたいと思う。
- 会長) 計画の内容を町民の皆さんへ浸透させることが重要である。委員の皆さんは所属団体において、ぜひ計画の周知を行っていただきたい。医療の立場からは何か意見はあるか。
- 委員) 独居の方への支援が自殺対策にもつながるのではないかと。包括支援センターや民生委員児童委員等が訪問等を行い見守ることが大切だが、本人自身が支援を拒むケースもあるので対応が難しい。認知症初期集中支援チームによる取組みも行っているが、今後も各関係団体等が連携して取り組む必要があると考える。
- 会長) 積極的に死へ向かうのではないが、食事をとらず、医療を拒否し、不衛生な環境で生活続ける等、周囲から孤立し自己の健康・安全を損なうセルフネグレクトを行うような方もいる。事務局ではどのように考えているか。
- 事務局) 対策の難しい部分である。
- 会長) 包括支援センターの支援については計画で触れられているか。
- 事務局) 大柱「6 受け止め、つなげる相談支援」の小柱「(5) 高齢者への支援」において、包括支援センターとの連携について記載している。人間的な限界もあるが、現在も訪問相談等を行っている。
- 会長) ぜひ民生委員児童委員の方にも計画を周知していただきたい。食育の立場からは何か意見はあるか。
- 委員) 自殺対策に対しての直接的な意見ではないが、食育の事業を実施する際、事業の情報が町民の方へ効果的に伝わらない点を課題だと感じている。自殺対策においてもこの計画や実施している取組みをどのように町民の方へ伝えていくのか、その方法が課題となるのではないかと。
- 委員) 農業協同組合で接する機会のある方は、生産者という限定された方々であるとともに高齢化が進んでおり、自殺対策に対してどこまで関わっていいのか難しい部分がある。
- 会長) 自殺対策のネットワークを結ぶには個人情報の取扱い等、課題も多いが、「つなげる」をキーワードに取組みを進めていきたい。スポーツの立場から何か意見はあるか。
- 委員) 計画を策定しただけでは、自殺対策や自死遺族の支援を行ったことにはならない。計画を実行することが重要である。悩みや不安を打ち明けられる場をつくることはとても難しいことであるが、例えば家庭では打ち明けられないことでも、学校の仲間には話すことができるかもしれない。私もスポーツの分野のなかでそ

のような場をつくれればと考えている。

会長) 確かに計画を策定しただけでは自殺対策にはならない。しかしながら、計画を策定することで一歩前に進むことは確かなことである。策定後はこの計画をどのように活用していくかを考え、取組みを進めていっていただきたい。

(2) 大磯町自殺対策計画の答申について

資料3に基づき事務局より説明し、案のとおりの内容で承認される。

《質疑応答》

特になし。

3 その他

○ けんこうプラン大磯の進捗管理について

資料4に基づき事務局より説明。

《質疑応答》

委員) 「けんこうプラン大磯」において歯科医師会が関連する分野は多岐に渡るが、関連全ての事業に対して進捗管理シートを作成する必要があるか。

事務局) 全ての事業に対して進捗管理シートを作成していただく必要はない。歯科医師会として重点的に進めている事業や、反対に課題が多く思うように進んでいない事業、その課題に対する町への要望事項等をピックアップして作成いただいて構わない。

4 閉会